

in 最終報告会

今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは
ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー

開催報告書

2023年12月19日(火)

【会場】：こども家庭庁、総務省、文部科学省

主催

高校生ICTカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会

共催

こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2024年2月2日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催状況.....	5
3. 高校生 ICT Conference 2023in 最終報告会 開催概要	5
4. 主担当	14

1. 開催概要

名称：	<p>高校生 ICT Conference 2023</p> <p>テーマ： 今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー</p>
主催：	<p>高校生 I C Tカンファレンス実行委員会 (構成団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ・大阪私学教育情報化研究会 ・一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会 <p>(地域団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県サイバー脅威対策協議会 (新潟) ・長野県 (長野) ・長野県教育委員会 (長野) ・長野県警察本部 (長野) ・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会 (福岡) ・大分県 (大分) ・公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 (大分)
共催：	<p>(全国)</p> <p>こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省</p> <p>(地域)</p> <p>一般社団法人 LOCAL (北海道)、十勝毎日新聞社 (北海道)、専門学校 静岡電子情報カレッジ、長崎県警察本部 (長崎)、大分県教育委員会 (大分)、大分県高等学校 PTA 連合会 (大分)</p>
後援：	<p>(全国)</p> <p>一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構</p> <p>(地域)</p> <p>北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道私立中学高等学校協会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、茨城県、茨城県メディア教育指導員連絡会、茨城県教育委員会、新潟県教育委員会、新潟県高等学校長協会、新潟県高等学校 PTA 連合会、学校法人 国際総合学園新潟コンピュータ専門学校、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県公立高等学校 PTA 連合会、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県私学協会、大阪府高等学校情報教育研究会、一般社団法人せんだんの会、情報教育学研究会、兵庫県教育委員会、兵庫県私学教育情報化研究部会、高知県教育委員会、高知新聞、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡</p>

	<p>県公立高等学校 PTA 連合会、長崎県、長崎県教育委員会、長崎県青少年育成県民会議、大分合同新聞社、西日本新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、大分ケーブルテレコム</p>
協賛：	<p>グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発総研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、グリーン株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会</p>
協力：	<p>株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイトジャパン株式会社、学校法人岩崎学園、情報セキュリティ大学院大学</p>
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>新型コロナウイルスで揺れ動いた社会は、ようやく各種の行動制限はなくなりましたが、未だ感染リスクは存在するため、本来密であるはずの高校生の生活環境においても、人と人が直に接するリスクを未だ抱えている状況です。</p> <p>一方、高校生の ICT 利用環境に目を向けると、スマホに加え、一人一台学習端末の導入（いわゆる GIGA スクール構想）により、機能のすぐれたタブレットやパソコンの個人専有が普及しました。さらに自然言語による生成 AI 技術等の目覚ましい進歩と実用化に向けた取組により、多様なシーンで AI 技術が利用されるようになりました。こうした社会環境の変化や情報技術の進歩を背景としたデジタル社会を迎え、今後、益々利用者自身の情報リテラシーや情報モラルが求められるようになってきています。</p> <p>ICT の健全な利用により利用者のデジタルウェルビーイングな状況を維持する社会環境の構築に向けた取り組みは我が国が目指しているところであり、それを支えるのが利用者の情報技術を利用する上での行動規範であるデジタルシティズンシップです。これから迎えるデジタル社会においてその中核をなすであろう現在の高校生が、現在そして将来果たすべき役割とは何か。多様な ICT 機器やサービス、新たに開発される技術の活用において、ICT 利用の最先端を走る高校生が、自身の役</p>

	<p>割について、斬新な指針とその実現方法を議論し、提言する。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まりました。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められています。</p> <p>更に、国は 2021 年 9 月 1 日にデジタル庁を新設し、2022 年 6 月 7 日に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において”誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化”を目指しています。高校生を取り巻く環境では、2022 年度より「情報」の授業が必修化されました。また、2025 年度からは共通テストで「情報」を加えた 6 教科 8 科目を課すことが決まっています。このように、ICT の利活用はわが国発展のための基盤と位置付けられており、これからのデジタル社会で中核を担う高校生による熱い議論を目指します。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表 (プレゼン) (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名 (各開催地により変動あり)</p> <p>募集見学者各回 30 名 (各開催地により変動あり)</p>
参加参観方法：	参加費・参観無料 [要事前登録]
高校生 ICT Conference 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米田謙三 (大阪私学教育情報化研究会 副会長) <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 石田幸枝 (公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長) 植田 威 (特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事) 小城 英子 (聖心女子大学) 他、関係者団体、事業者等 <p>【事務局】</p> <p>一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 〒104-0041 東京都中央区新富二丁目 4 番 5 号 ニュー新富ビル 4 階 TEL: 03-6280-4901</p>

2. 高校生 ICT Conference 2023 地域開催状況

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生がテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜しました。

開催地	開催日時	会場
札幌	9月16日	株式会社内田洋行 札幌ユビキタス協創広場 u-cala
札幌	10月1日	株式会社クレスコ 札幌事業所
帯広	10月1日	とかちプラザ
茨城	8月23日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	10月1日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月17日	NCC 新潟コンピュータ専門学校
静岡	9月18日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
愛知	9月24日	大同大学大同高等学校
長野	10月14日	オンライン
石川	9月18日	金沢勤労者プラザ
大阪	9月17日	私学会館
兵庫	9月9日	兵庫県立姫路東高等学校
高知	9月10日	高知県立伊野商業高等学校
福岡	9月2日	福岡県千代合同庁舎
大分	7月29日	ホルトホール大分会議室
長崎	8月19日	オンライン
全国オンライン1	8月7日	オンライン
全国オンライン2	10月8日	オンライン

3. 高校生 ICT Conference 2023in 最終報告会 開催概要

日時	2023年12月19日(火)
11:00-12:00	文部科学省にて高校生プレゼン、意見交換
14:00-15:00	こども家庭庁「青少年インターネット環境の整備等に関する返答会」にて高校生プレゼン、委員・関係省庁との意見交換
16:15-17:15	総務省にて高校生プレゼン、意見交換
会場	〔文部科学省 総合教育政策局〕 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-2 〔こども家庭庁「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」〕 〒100-6090 東京都千代田区霞が関 3-2-5 〔総務省 情報流通局〕 〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎 第2号館
テーマ	今、高校生が考えるデジタルシティズンシップとは ーデジタルウェルビーイングな社会を目指してー
出席者	〔最終報告者〕2名 【長野県】長野県松本県ヶ丘高等学校 2年 女子 【長崎県】長崎県立壱岐高等学校 1年 女子 〔参加校引率〕2名

	<p>[随行] 4名 高校生 ICT カンファレンス実行委員会 ・一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ・大阪私学教育情報化研究会 ・一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会</p> <p>【文部科学省】 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 室長 他 計：6名</p> <p>【こども家庭庁】「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会委員 政府関係者： 計：5名（臨席）、この他委員はオンライン参加 こども家庭庁、警察庁、総務省、法務省、文科省、厚労省、経産省、消費者庁 こども家庭庁成育局長 こども家庭庁官房審議官（成育局担当） こども家庭庁 参事官（青少年環境整備担当） 他 計：約30名</p> <p>【総務省】 大臣官房審議官（情報流通行政担当） 情報流通行政局 情報流通振興課 室長 関東総合通信局 電気通信事業部長 他 計：約10名</p>
概要	<p>●生徒発表：各会場共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルシティズンシップ →適応力「時代に合わせて多角的な視点で客観的に判断できる力」 ・現在の教育環境の問題点と解決策 →変化の激しい ICT 技術社会の 最前線に立つ高校生は、どの世代よりも ICT に慣れ親しんでいる！ →高校生は、様々な世代に高校生が情報を発信することができる！ <p>【提言】</p> <p>「政府に対して①」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の改善 →機器スペック、管理システムの改善で探求活動でも活かせる環境を整備 <p>「政府に対して②」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生では手の届かない場所のサポート →高齢者、親世代への ICT 教育の場の提供 ※家庭では高校生がきっかけをサポート →誰一人取り残さない社会実現ために過疎地域での Wi-Fi 環境整備を

「政府に対して③」

- ・実践的かつ効率的な ICT の使い方を小中学生(義務教育)のカリキュラムに導入
→日常生活で ICT 機器を使う年齢が下がっていることから、小中学生の頃から日常生活で最大限活かせる基礎的な知識(詐欺サイト,効率性,SNS についてなど)をつけることが必要!

「高校生がすること」

- ・高校のカリキュラムで小中学生にグループワークや実践的な授業を実施
→オンラインを活用 &ゲーム感覚の体験型授業
※不審メール対応を体験できるゲームを作成実践した
- ・高校生が授業をすることで、現実的かつ親しみやすい ICT をより楽しく安全に使える授業に!
→高校⇔小中学校の架け橋に

【まとめ】

- ①1人1台端末の改善
- ②高校生では手の届かない場所でのサポート
- ③小中学生に対して実践的かつ効率的な ICT の使い方をカリキュラムに導入

●文部科学省

【文科省】学校の機器格差の課題は認識している。地域が競争入札などで選定する仕組であり、今後の課題である。地域の視点で、高校生、保護者、高齢者などの世代を含めて ICT を活用していく提案はすばらしい。「得意な人」として高校生自身が高齢者や子どもを教えていく提案もよい。自身の経験から ICT の利用で、親の理解が得られ難いことは理解する。東京都では ESAT-J (中学校英語スピーキングテスト) の対策としてスマホ用の英会話アプリを提供していると聞いた。子どもがスマホを持つ時代になり、詐欺などの被害に遭わない教育を早くから行うのは重要だと考えている、提案にあったゲーム感覚でモチベーションを持って体験し、楽しく学べるというのは非常に素晴らしい。

【文科省】親世代や高齢者への周知について、高校生が親世代より詳しいと具体的に感じるのは?

【生徒 A】 SNS の使い方、利用するメリットについても理解している。

【生徒 B】 私の親は、先にスマホを使い始めたが、LINE の友達登録方法がわからず、私が教えた。バーコード決済も、提示と読み取りで戸惑っている。また、詐欺サイトについて私が注意したこともあった。

【文科省】 高校生の皆さんは新しいサービスに対する感度というか追いつくのが早いという印象を持った。そういうところを活かして他の世代に伝え学び合うのが効果的と思った。

【文科省】 世代間で ICT に対する考え方の違いやすれ違いがあるのだと思う。リスク直面時に「危ない」と判るかどうかに差が出ている。ICT の進歩は速く、10 年も経てば世界が変わる。変化にいかに対応し使いこなしていくかが重要になっていると感じた。高齢者や親世代に対し ICT の重要性や利用方法を発信、理解させる取り組みは大事。文科省も「ネットモラルキャラバン隊」を全国数か所で開催し、生成

AI など情報提供をしているが、こうした取組に接点を持ちづらい人たちに、どう情報発信したらよいかアイデアがあれば教えて欲しい。

【生徒 A】私たちの世代から親に対して参加を促すアピール、行動すれば、理解を示してくれるのではないだろうか。その後、政府が用意する学びの場に参加し、理解を深めれば良いと思う。

【生徒 B】例えば生成 AI などについて、親世代に一般的な情報と子どもの活用の仕方を紹介することをセットして一つのシンポジウムを構成してみるのはどうだろう。

【文科省】カンファレンスで、対面とオンラインを経験し、それぞれに良さがあると思う。それぞれの印象はどうか、日常的に使い分けている例があれば教えて欲しい。

【生徒 A】最終報告会のスライドづくりはオンラインで行ったが、Zoom でスライド画面共有しながら作業していると、相手の表情が見えない。やはり対面で作業したほうが相手の表情や感情の動きもわかりやすく、得るものは大きいと思う。

【生徒 B】離島に住んでいて、学校でオンラインにより遠方の先生に教えていただく機会も多い。その際は小さくても画面の中に顔の表示があれば何を伝えたいか表情から読み取ることができる。スライド作成やプレゼンの練習は対面の方がやりやすいし安心できると感じている。

【文科省】GIGA スクール構想を含め学校のデジタル化を推進している立場。令和元年度から始まった GIGA スクール構想だが、端末の更新の時期を迎えている。予算折衝でも、政府内外に厳しい意見があったところではあるが、二人の話を聞き、端末の活用を真剣に考えている高校生を知り、引き続き頑張りたい。1人1台端末について、地域・学校によって機種が異なる指摘は理解した。一方、メーカー統一を国としてやっていいのかという問題もある。また、備品調達で各教育委員会が工夫している事実がある。機種指定では競争が起きず調達価格は高くなる懸念がある。これを踏まえて、文科省としては、一定の CPU スペックを定めて、各地に選定を委ねているが、引き続き格差是正については努力していきたい。次に、令和4年の8月に全国の学校でのフィルタリング利用実態について調査を行った。指導上必要な制限は教育委員会や学校であってよいが、不用意に「危険そうだから」という理由で制限することでは理解は得られず、かえって効果的な使い方を阻害してしまうので、私精査が必要と考えている。

【文科省】現状では、GIGA 端末の活用頻度と学力の相関については、有意な結果が出ていないところではあるが、一方、学校に端末が導入されて、学習またそれ以外でも、どう役立ち、立っていないか率直に聞きたい。

【生徒 A】私の学校は全員が私物の iPad で制限はない。授業プリントはほとんどアプリで配信され、課題も iPad で作成回答する。教科書もほぼ電子化されており、通学時は iPad のみで楽。一部紙の教科書を使う先生の際は iPad と教科書を両方使う場合もあるが、iPad と Wi-Fi があれば学校と家庭で同じ環境で学習ができ感謝している。画面が大きいので都合がよい。

【生徒 B】中学校では PC に制限があり、YouTube の視聴ができなかった。授業で補助的に使う解説動画や合唱コンクールの手本動画も視聴できなかった。必要があ

る時は（制限のない）大きな PC を持ち運んで使用しなければならず不便だった。高校に入り制限はなくなり、授業での補助的な使用、英語の辞書代わりにの使用などとても有効に活用できている。課題の提出も Teams で簡単になり、家で課題をやりその場で提出でき、便利さを実感している。

【文科省】 端末のスペックやシステムで、OS やアプリの違いからスムーズに情報共有できない経験は自身もあり、発表の二人も悩んだと思う。また、現代の社会問題ともいえる高齢化の中で、役に立つサービスを認知してもらうか提言もあったが、高齢者には医療に関する情報、例えば在宅で受けられるケアや、医療機関への交通機関情報など、Society5.0 が目指す社会への展開であるようにも思える。また、学校教育で学ぶ必要がある情報リテラシーをクイズ形式の教材で紹介いただいた。私も国のプロジェクトでこうした自作の教材づくりにかかわった経験があるが、当時からこうした取り組みは学校によって相当な格差があった。出前事業に参加した子どもたちの目の輝きはちょっと違う。そんな思いや行政への提案を持ってぜひ将来に向かって引き続き積極的に取り組んでいただければ嬉しい。

【米田】 皆さんからの提言もあったが、それ以外にも文科省では様々な取り組みやカリキュラムが進んでいる。それらの取り組みをいかに自分事としてとらえるかがキーになってくる。教員の立場からだけでなく、こういった場を通して行政を含めた様々な連携が必要になってくる。文科省にはぜひ引き続きご指導、サポートをお願いしたい。

●こども家庭庁「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」

【検討会委員】 授業を作ってみての感想はどうか？

【生徒 A】 小学生向けに、難しい言葉を使わないようにするのが難しかった。

【検討会委員】 高校生が小学生に授業をするというのは非常にいいと思う。今後実践する予定はあるか？

【生徒 A】 長野県で機会提供の検討が進んでいる。

【検討会委員】 実際に各地で開催し提言して欲しい。今回は、高齢者、小中学生にフォーカスしているが、支援が必要な世代はどこと思うか？

【生徒 A】 私たちより上の親世代や高齢者世代が課題と考えている。

【生徒 B】 親世代。親の理解は時間をかけないと難しい。

【検討会委員】 課題は親世代や、下の世代と感じる。小学生に対する授業ができたので、さらに高齢者向けの授業など、他の世代へアプローチする方向性が明確になった。

【検討会委員】 端末を一律化することが重要と提言があったが、具体的な場面で問題を感じた経験はあるか？立法化には立法事実（法律をつくる根拠となる事実）が重要視される。

【生徒 B】 端末が貸出と購入で、制限内容が異なり、使用できる範囲も異なる。そこを一律化して欲しい。年齢や個人の能力で制限を変えることで有効的な使い方ができる。例えば（生徒 A）は iPad、（生徒 B）は Windows で、両者間のデータ交換が難しかった。スペックの一律化をすればやり取りが容易になる。

【検討会委員】 皆さんの意見は、一律化されていないことが困るというよりは、現

在利用している機器は、十分な能力を有していないというイメージですね。

【検討会委員】今回発表の「高校生では手の届かない場所でのサポート」で、親世代と高齢者が取り残されている認識はしている。問題は、この層が集まるところが無くリーチの仕方が難しい。リーチのアイディアはあるか。

【生徒 B】高齢者は自らから発信することが一番難しい世代で、私たちでは手が届かない、交流の実践機会を政府で用意して欲しい。親世代は、まず私たちが親世代に ICT を使う利点を説明した上で、より詳しい説明を政府が用意する機会を有効利用できたらいい。

【検討会委員】まず家庭の中でリーチするというイメージですね。

【検討会委員】小学生向けの授業は非常に具体的で良い。SMS が来て、開くとマイナス 20 点で、その後個人情報を入力するとマイナス 10 点という、リスクの判断はどうしたのか？私の感覚では開いても個人情報の入力に至らなければセーフで、入力してしまう方のリスクが高いイメージ。同様にサポート詐欺の件でも、電話より遠隔操作アプリダウンロードの方は危なく思える。

【生徒 A】当初同じ点数にしていたが、小学生向けで点数が低くなると可哀想だと思った。URL をクリックしなければ次の段階でパスワード入力画面に至らないことから最初が大事と考え配点した。

【検討会委員】親世代の教育が重要とあったが、高校生の親世代は 40 代が中心と思われ、それなりに ICT を使いこなしている印象もある。具体的には親世代のどの理解が足りないと感じるのか？

【生徒 B】私の親は 50 代後半で教えることも多い。例えば、バーコード決済とスキャン決済の使い分けができない、LINE の友達追加方法が分からないなどで教えた経験がある。親世代で ICT をよく知らない人に発信し、知っている人には更に深めてもらいたいと提言した。

【生徒 B】スマホを使って勉強している時に、使い過ぎの注意を受けることがある。スマホが全部ゲームだと考えている親世代が多く、ICT 機器のよさを理解してもらいたい。

【検討会委員】カンファレンスに参加するきっかけはなにか？

【生徒 B】生徒会で勧誘された。ICT に詳しくなりたいと思い参加した。

【生徒 A】先生から勧誘された。生徒会役員として、生成 AI をテーマに活動する経験から参加した。

【検討会委員】小中学生向けのカリキュラム導入は大賛成。それを高校生が教えるということであれしく思った。本校は「1人1台端末活用」をテーマとした研究奨励を受けているため、協働したい。面白いクイズだが、小学校には6歳から12歳までおり、発達段階に応じて、使う簡単なプログラミングソフトでも作れそうなのでそうなので、一緒にやりたい。

【検討会委員】機種統一すると使いづらい。具体的に、AirDrop の使用許可、パワーポイントの使用許可など、他校と同様の環境で使用したいと提言すると判りやすい。クイズはユーモアを織り込み子どもたちが楽しむものと考えていくのがいい。ぜひ実際にオンラインで授業をして欲しい。そこから何か新しいところが始まると思う。10年程前にネット問題の対策を考えたときは、まず高校生を危険から守ると

いう目的で始めたが、高校生は支援対象から、高齢者や小中学生を支援する側に回ったと感じた。

【生徒 B】 ICT は年々進化して、高校生は適応する能力がどの世代よりもあると思っている。他方では対応できない世代があり、協力をして、高校生から情報発信をしていきたい。

【生徒 B】 高校生は ICT 機器に対する意欲が高い。学ぶ意欲のある世代が多く発信することで他の世代も触発されると期待している。これからは発信する側になりたいと考えている。

【検討会委員】 皆さんはデジタルネイティブの世代だが、デジタルネイティブであることと、リテラシーを身につけていることは別のことだと私は感じている。例えば、先ほどの小学生への授業を、同級生に実施したら、どれぐらいの正解率になると思うか？

【生徒 B】 私の高校の 1 年生では 4 分の 3 ぐらいと思う。学校に ICT 委員会などもなく、受け身な感じがあり、これを考慮し、4 分の 3 ぐらいだろうと思う。

【生徒 A】 私の学校は 100% だと思う。理由は、探求活動で iPad やパソコンを使ってネット検索をしており、先ほどの URL とかの問題には強いのではないかと考えている。

【検討会委員】 学校の環境によってそれだけいろいろな差が出てくるということも事実ですね。

○2024 年度テーマについて

【米田】 実行委員会では、高校の現場で探求的な活動が普及し始めており、「調べる」「発表する」「問いをつくる」を深める過程で、生成系 AI がキーになると考えている。文部科学省でもまだガイドラインがグレーで、ユネスコも提言をしているが、まだまだ分かりづらい現状。GIGA により小学校、中学校で 1 人 1 台端末に慣れてきており、高校生はどのような視点を持つべきか委員の皆様の御助言、御意見をいただきたいと思っている。

【検討会委員】 生成 AI は、大きく社会を揺るがすと思っている。ただ、AI はデータがないとできていかない仕組みだと思うが、いかに誤情報、偽情報を見分けるかが大切になっていく。様々な課題や焦点からスタートして、掘り下げていかないと情報の真偽は分からない。高校生が、問題が起きたときに、イシューまで戻って考えることができるかが大きなポイントになる。生成 AI に対しどう対応するかという表面的な議論では空回りする可能性もあると危惧する。

【検討会委員】 大人もまだ答えがなく、議論が拡散する可能性がある、問題点を見据え、話し合わないと、議論が拡散する。「政府が考えてくれ」ではなく「私たちはこう思う」「私たちはこれが必要だと思う」というように高校生の言葉で話すことが出来れば独自性がより出てくるのではないかなと思う。

【検討会委員】 AI の利用は課題だが、問題は AI から出力される情報の正しさで、それをきちんと評価できるか、情報の取捨選択をどう考えていくかが問題。また、最近、子どもの相談を受けて多いのは、児童ポルノの転送や、名誉毀損的な発言をしてしまい、損害賠償と言われて心配している相談が多い。今までは青少年が被害

者になる発想だったが、加害者にならないためにどうしたらいいのか考えても良いと思った。

【成育局長】 2人の生徒が本当に堂々とプレゼンし、各専門分野の委員の的確な質問や指摘に対し、堂々と回答する姿に感銘を受けた。こども家庭庁成育局は、青少年のインターネット環境の整備以外に、妊娠・出産時の支援、母子保健、幼児保育、学童保育、小中学・高校生の居場所の支援などを担当している。日頃の仕事は、子どもを大人がどう守るか、幸せに生きていくための手伝いなど、子どもを守るという使命感で仕事をしているが、今日は真逆だと思いながら聞いていた。ICT分野は、中高年についてはいけないところがあったり、苦勞しながら対応している。皆さんのようにICTを使い慣れている世代が、社会を支える側として活躍いただく分野なのだかと痛感した。特に小学生に対して教え自分たちがどう貢献できるかというプレゼン、具体的にトライアルできた暁には、親世代とか高齢者に、地域で活躍する機会が出てくると思うが、親子の交流、多世代交流にも皆さん方の力が必要と思うし、この取組の幅がすごく広がっていく期待を持った。こども家庭庁は、子ども若者の皆さんとパートナーとして政策を推進していくという観点がすごく大事になると、新たな時代を感じた。引き続きの活躍を期待している。

●総務省

【総務省】 提言にある全国インフラの整備について、離島に住んでいて、困ったことがあれば教えてほしい。

【生徒 B】 周囲には高齢者が多く、携帯電話ではなく固定電話だけ使うという人が多い。私の祖母も固定電話を使うことが多い。こうした環境からかWi-Fiの整備が進んでいないところが多く、学校ではWi-Fiが使えるが、高齢者が集まる場所では十分環境が整備されていないと感じる。

【総務省】 携帯電話が繋がらない場所はあるか？

【生徒 B】 放課後に利用する店のイートインスペースなどにはWi-Fiがあるが、ないところも多い。

【総務省】 学校のインターネット環境は十分か？回線が遅いと感じることはないか？

【生徒 B】 中学生の時から学校でインターネットを使っているが不満を感じたことはない。

【生徒 A】 私の学校はOBOGが寄付してWi-Fiを整備し、快適に使えるようになっている。

【総務省】 全国ではまだ通信環境が十分でないという声がある。総務省としても、順次支援し通信環境を整備している最中。早く皆が十分な通信環境を持って、誰一人取り残されない社会となるよう努めたい。

【総務省】 皆さんの親世代は普通に通信機器を使う世代だと思うのだが、親世代と話していてギャップを感じることはあるか？どういうことを理解してほしいと望むか？

【生徒 B】 親は、私たちが使っているアプリのことをよく知らず、スマホにはLINEだけしかないと思っている。私は所属している探求のクラブで、離島の情報を調べ

たり、地元企業のインスタグラムを見たりして情報収集しているが、スマホを使っているとすべて LINE を使っている時間だと思われてしまう。先入観を持たずに、何をしているのか確認してもらえたら親に相談してみたいと思う。

【生徒 A】私も英単語のスマホアプリや YouTube の勉強動画を見ているときに注意される。親は、スマホを単なる連絡手段と思っているのかもしれないが、勉強のツールでもあるということを理解してほしい。

【総務省】親は子どものスマホ利用実態を理解していないところがある。むやみに怒ったり取り上げたりせず、お互いにコミュニケーションを取ることが大事だと理解した。

【総務省】スマホの制限等に関する約束は家族で決めているか？

【生徒 B】テスト期間中に友達とスマホで電話をしていたら父親に注意され、勉強中はスマホを預け、電話する用がある時はスマホを借りるというルールになった。

【生徒 A】私の家は特にルールはなく、自由。

【総務省】行政含め生活に役立つ様々なサービスがスマホ向けに提供されるようになってきている。総務省でも、高齢者向けにスマホ講習会を実施しているが、受講者は一部にとどまっている。周り的高齢者はスマホを使いこなしているか？高齢者のスマホ利用はどのように普及させればよいと思うか？

【生徒 A】祖父母はスマホを持たず、回覧板や高齢者のコミュニティで、十分と考えている。しかし私がスマホを見せると、使用方法を積極的に尋ねてくることもある。

【総務省】機会があれば使う意欲があるということだろう。

【生徒 A】最近祖父がスマホを使い始め、LINE も使っている。最初は使い方がわからず 1 文字ずつ送信してきた。今は私が休日に祖父のところに行って教えている。

【総務省】孫から教えてもらったらうれしいだろうね。勉強しようという気持ちになる。

【総務省】小学生に向けたクイズ授業の中で、サイバー犯罪についてのケースが出てきたが、これは実体験か？

【生徒 A】不審メールが来たのは実体験だが、URL をクリックした経験は無く、クリック後にどういう状況になるかは情報の先生に教えてもらった。

【生徒 B】親のスマホには頻繁に不審メールが来ており、電話がかかってきたこともあるので、知らない番号からの電話には出ないようにアドバイスした。

【総務省】親が教えることを子どもから教えている感じだね。

【生徒 B】母は機械に弱く慣れていないので、私に相談してくることが多い。実際に PayPay を騙る詐欺事案の被害に遭いそうになったこともある。

【総務省】身近にサイバー犯罪の危険性があるので、ICT に不慣れな小中学生にもこういった危険性を教えてあげたいという思いがあると理解した。私たちも情報活用支援の取り組みで、多くの人に ICT を活用してもらいながら、併せて危険性や注意すべきこともあるということを広く周知していきたい。

また、今回の紹介で、ここまで踏み込んだ内容を小中学生に体験させる必要性を理解し、勉強になった。皆さんの資料を事前に見て楽しみにしていたが、話を聞いてみて、とてもパワフルな人たちだと感じた。特に 1 人 1 台端末の改善のところは「私

私たちはもっと使いこなせるので、いろんなツールを使えるようにしてください。危ないと制限がかけられますが、自分たちで判断できるので大丈夫です」ということだろう。政府には、高校生では届かない場所をサポートしてほしいというのも、自分たち以外の世代の人にもしっかり活用してもらいたいからこそ、そういった場所をどうするかという前向きな提言だと感じた。さらに、小学生には自分たちがこんなことをやっていきたいという話の三本立てだったので、今日の発表は、まさにデジタルシティズンシップの考え方に合致しているととても勉強になった。

【総務省】ひとつ言葉の遣い方の部分で、デジタルシティズンシップを「適応力」と整理していたが、それはどういう意図なのか？私の感覚だと、「適応力」とは、すでにあるものに対してどのように Adjust していくかという感じ。あなた方が自分たちを表現して「従う側」といったのがそれだと思う。

【生徒 A】「適応力」は、新たな ICT 機器やサービス、社会が登場してくる時に、そこに対応していく力、進化していく力という意味で使っている。

【総務省】規制をかけなくても、その場で判断して、時代に合わせ多角的な視点で客観的に判断できる力ということだろう。まさにデジタルシティズンシップの考え方だと思う。シティズンシップは日本語に訳しにくく、なかなか定着しない言葉だが、今回の発表を最後まで聞いてみると、客観的に判断できる力を持って、最後まで責任ある社会行動を取っていく、という意味だと理解した。問の作り方も、実際の場面にあったら、どのように行動するかという観点で作られており、責任ある行動ということに対する皆さんの自信を感じた。

【総務省】二人の発表を聞いて、ICT に関して非常に感度が高いという印象を覚えた。これから学校に戻って、友達や後輩に ICT について積極的に考えて活用していこうという雰囲気醸成し、輪を拡げていってほしい。

【総務省】貴重な提言をしていただいた。プレゼンテーションを聞いていて、自らの体験に基づき、深い問題意識を持って、考えてくれたことが実感できた。我々としても、このようにしっかり問題意識を持つ若い人たちがいることを心強く感じる。特に、政府に対する提言とともに、自分たちの経験をもとに高校生は小学校、中学校の講師を務めることで、自ら主体的にこの問題に関わっていくんだという意気込みを発表いただき、頼もしく感じた。総務省も ICT リテラシー向上や通信インフラの整備に一生懸命取り組んでいるが、まだまだ力が及ばないところもある。そういう中で皆さんのような若い人たちが自分たちで考えて、このように提言してくれるのは本当にありがたい。皆さんの発想をしっかり活かせるよう取り組んでいきたい。皆さんもこれまでまとめられたことを家族や友人に伝えて、どんどん議論の輪を広げていってほしい。 (先生方にも) ここまで段階を踏んでまとめていただき感謝している。

4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 大阪私学教育情報化研究会 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ推進協議会	事務局
---	-----

以上